

にいがた命のつながりプラン

新潟市生物多様性地域計画

概要版

にいがた命のつながりプラン

発行年月 平成24年3月

編集・発行 新潟市環境部環境政策課

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602-1

TEL 025-226-1359

FAX 025-230-0467

新潟市

※このイラストは、平成23年度に開催した生物多様性ワークショップで話し合われた意見をもとに作成した「新潟市の将来像」です。

新潟市の自然環境

新潟市は、人口81万人という大都市でありながら、多種多様な自然環境を有しています。この自然環境は大切な資源であり、将来に残すべき財産でもあります。

新潟市の自然環境の特徴

水辺環境に恵まれた都市

- 里潟や河川、水田・水路、海岸線など、多様な水辺環境が存在
- 新潟市は、オニバスの日本北限の生育地



市街地を包み込む田園環境

- 水田面積は、全国1位の規模
- 水田は食料生産の場であり、コハクチョウやオオヒシクイの重要な餌場



都市部に隣接する里山

- 多くの希少種が息息・生育
- 人の関わり方の変化が、里山の環境を変えつつある



海岸保安林に守られた住環境

- 長い海岸線には生活を守る保安林が存在
- 林内の散策やレジャーなどの利用で市民の生活に潤いを与えている



人の関わりによって形成された自然環境

- 人工排水によって成り立つ特徴的な自然環境



短期目標である「生物多様性の重要性を認識し、自然環境の保全に向けた取り組みを展開」するため、牽引役となる「にいがた命のつながりプロジェクト」を実施します。

2 触れよう・学ぼう・受け継ごう！輝く里山プロジェクト

【プロジェクトの目的】

絶滅危惧種やさまざまな動植物が息息・生育する里山の生物多様性保全を推進します。

【取り組み内容】

- 里山に関するさまざまな情報を発信
- 間伐材を利用し、里山の利用の活性化と森林整備を推進【対象：にいつ丘陵】
- 自然体験活動を通して、里山の役割を市民に理解してもらい、市民と協働で里山の保全と利活用を推進【対象：にいつ丘陵】
- 里山生きもの調査を実施【対象：角田山】



にいつ丘陵トレッキング



森づくり体験教室



アキハアウトドアスポーツフェスタ (カヌー体験教室)

4 命を愛する人づくりプロジェクト

【プロジェクトの目的】

生物多様性保全の担い手となる人材の育成と人のネットワークの構築を進めます。

【取り組み内容】

- 「にいがた生きものファンクラブ」会員を募集し、自然環境に関する活動などの情報を広く発信
- 「にいがた生きものサポーター」を募集し、自然環境保全活動などの体験の機会を提供



自然観察会に参加する子どもたち



自然観察会に参加する市民

にいがた命のつながりプロジェクト

1 命にぎわう里湯ネットワークプロジェクト

【プロジェクトの目的】

新潟市のシンボルであり、生物多様性の恵みと大切さを感じさせてくれる里湯の生物多様性保全を推進します。

【取り組み内容】

- 新潟市里湯サミットを開催【対象：佐潟・鳥屋野潟・福島潟】
- 希少種の保全活動を実施
- セイタカアワダチソウの駆除活動を実施



3 おいしい・たのしい生物多様性交流プロジェクト

【プロジェクトの目的】

市民に身近な食や花を通じて、農業から生物多様性への理解を進めます。

【取り組み内容】

- 冬みず田んぼや農業用排水路への魚道設置などの取り組み
- 新潟市食育・花育センターを拠点とし、子どもたちへの多様な体験の機会を提供
- 食育、花育マスター制度を進め、各種活動への全市的な活用を推進



新潟市に生息・生育する生きもの

新潟市でこれまでに記録された生物は約6,200種で、このうち358種が保護上重要な野生生物（絶滅危惧種）として、「新潟市レッドデータブック(※)」に記載されています。また、新潟市はハクチョウの飛来数が全国1位で、日本有数の冬鳥の飛来地です。

里湯

里湯は、水生植物や水鳥の宝庫

ハス、オコバス、ミズアオイ、オオヒシクイ、コハクチョウ、オオハクチョウ など



里山

里山は、多様な動植物の生息・生育空間

アカガシ、タブノキ、オオミスミソウ(雪割草)、カタクリ、ハヤブサ、ギフチョウ など



河川・水路

浅い水辺や河原は、動物の生息空間

コアシサシ、オオヨシキリ、サケ・マス類、ヤリタナゴ など



海岸・保安林

砂丘地や保安林では、多くの動植物が生息・生育

クロマツ、ハマボウフウ、シジュウカラ、メジロ など



田園

鳥類やさまざまな動物が、田園を餌場などとして利用

オオヒシクイ、コハクチョウ、アキアカネ、アマガエル など



市街地

まちなかの緑は鳥類など動物の貴重な生息場所
エノキ、ケヤキ、ツバメ、スズメ など



ハクチョウ類・ガン類飛来数

本市には、毎年約10,000羽のハクチョウが飛来し、その数は全国1位です。福島潟は、毎年5,000羽以上のオオヒシクイが訪れる、日本最大の越冬地です。



※「大切にしたい野生生物～新潟市レッドデータブック～」平成22年3月刊行
新潟市に生息・生育している絶滅のおそれのある野生動植物をまとめています。

新潟市における生物多様性の危機

新潟市でも、生物多様性の危機が表面化し始めています。

<p>第1の危機：人間活動や開発による危機</p> <ul style="list-style-type: none"> ○里山や砂丘地の貴重な植物の盗掘による希少種の減少や消失 ○土地開発、農地整備などによる動植物の種類や個体数の減少など  <p>用水路での動物の移動経路の消失</p>	<p>第3の危機：人間により持ち込まれた外来生物や化学物質などによる危機</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オオキンケイギクの生育拡大による在来種の生育域の減少 ○農薬や化学肥料を原因とした動植物の個体数の減少や種の消失など  <p>セイタカアワダチソウ</p>
<p>第2の危機：人間活動の縮小による危機</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マツ枯れ被害の拡大や荒廃化 ○里山の利用減少による荒廃など  <p>マツ枯れ被害</p>	<p>第4の危機：地球温暖化による危機</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気候変動による生態系のかく乱や種の絶滅など 

新潟市の将来像

本プランでは、

**つなげよう新潟の命
未来につなごう新潟の命**

を合言葉に、田園や里山、里山などをひとつにつなげた生物の生息・生育空間ととらえ、生物多様性の保全と持続可能な利用に取り組んでいきます。



短期目標（5～10年後）

生物多様性の重要性を認識し、自然環境の保全に向けた取り組みを展開

長期目標（50年後）

まちを包み込む多様な水と緑の自然環境に支えられ、多くの命と共に生きる暮らしを創出

将来像の実現に向けて

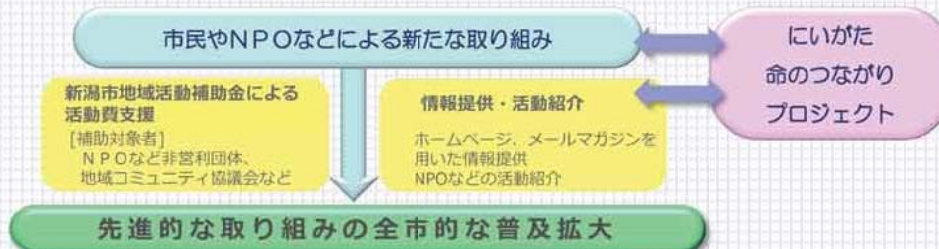
将来像の実現に向けて、4つの基本方針のもと取り組みを進めます。

<p>基本方針Ⅰ 在来の動植物の生息・生育環境の保全・再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 新潟市の在来の動植物を守ります イ 動植物の生息・生育環境を守ります ウ 動植物の生息・生育情報を収集・蓄積します 	<p>基本方針Ⅱ 自然環境の持続可能な利用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 生物多様性の保全に配慮した暮らしづくりを進めます イ 事業者などに生物多様性の保全に配慮した事業活動を求めます
<p>基本方針Ⅲ 人材育成・協働の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 生物多様性保全の担い手の育成を図ります イ 市民参加・協働を進めます 	<p>基本方針Ⅳ 地球温暖化防止などの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 地球温暖化対策実行計画を推進します

「にいがた命のつながりプラン」の牽引役
にいがた命のつながりプロジェクト

- 1 命にぎわう里山ネットワークプロジェクト
- 2 触れよう・学ぼう・受け継ごう！輝く里山プロジェクト
- 3 おいしい・たのしい生物多様性交流プロジェクト
- 4 命を愛する人づくりプロジェクト

市民やNPOが新たな発想で展開する先進的な活動は、「にいがた命のつながりプロジェクト」とともに全市的な施策への展開を図ります。



推進体制と進行管理

推進体制

